日本ＳＯＤ研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

旭川ゾンタクラブ主宰
丹羽先生講演会

旭川佐野病院院長ご夫妻 インタビュー

発行元 日本ＳＯＤ研究会 藤沢
住　所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
http://www.SOD-jpn.org/ SOD

去る3月18日、旭川で丹羽先生の講演会が行われました。先生は、これまでにも多くの講演を国内外で行ってきています。そんななか、今回は「旭川ゾンタクラブ」主宰の講演を行いました。ゾンタクラブというのは、女性の地位向上と社会奉仕を目的とした企業の管理職や専門職の指導的立場にいる女性が活動する世界的な団体。（注1参照）旭川ゾンタクラブは国際ゾンタの26地区エリア第Ⅰに属します。その旭川ゾンタクラブの会長、佐野侑子さんは、旭川でも有数の内科病院の専務理事。ご主人は佐野病院の院長先生でもあります。

当日会場には、ゾンタクラブの方々、旭川経済界の方々、佐野病院のドクター、看護師さん、薬剤師さん、職員の方々、製薬会社の方々、佐野先生のお知り合いのドクターなど医学関係者が多数集まられたので、講演会は1部と2部の構成で、1部は一般の方々にも分かりやすい「健康と美容、老化と活性酸素について」をテーマに行われました。そして2部は、専門家の方たちに残っていただき、ＳＯＤの製法などの話しから質疑応答まで、内容の濃い時間を過ごしました。

佐野院長ご夫妻は、平成2年からずっとＳＯＤを愛用されてきました。しかし、丹羽先生との出会いはつい最近のこと。ひょんなことから今回の話が進みました。そのご夫妻と丹羽先生との出会いのお話は、後半のご夫妻のインタビューでくわしく触れるとして、まずは、丹羽先生のお話の概要をご紹介しましょう。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

注1：ゾンタクラブとは女性の地位向上と社会奉仕を目的とした企業の管理職や専門職の指導的立場にいる人が共に活動する世界的な奉仕団体です。国際ゾンタは1919年11月8日米国ニューヨーク州バッファロー市で職業をもつ婦人達のグループにより発足、1930年法人となりシカゴ市に本部を設置、1987年には、この国際ゾンタの奉仕事業の目的を遂行する非営利組織の国際ゾンタ財団が設立されました。「ゾンタ」とはアメリカ先住民の言葉で、誠実、信頼を意味します。現在68ケ国に1，200以上のクラブ、33，

０００名の会員がいます。会員の職業は100余種に分類され、クラブ入会は一業種数名を原則とし、国際ロータリーに匹敵するものです。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

まず1部は佐野侑子さんのご挨拶から始まりました。

「みなさま、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回、縁がありまして丹羽先生のお話を聞けることになりました。クラブの会員だけではもったいないお話しなので、このような会を開催しました。今日のお話を広めて、活性酸素の現況を周りの方に話していただいたら、いろんなことで健康に役に立つのではないかということで、世界的な活性酸素の研究の権威である丹羽先生をお招きすることができました。まずは前半、活性酸素のお話しを。そのあと、専門家の方への時間も用意しております」

オゾン層破壊の北極に近い北海道の紫外線は危険

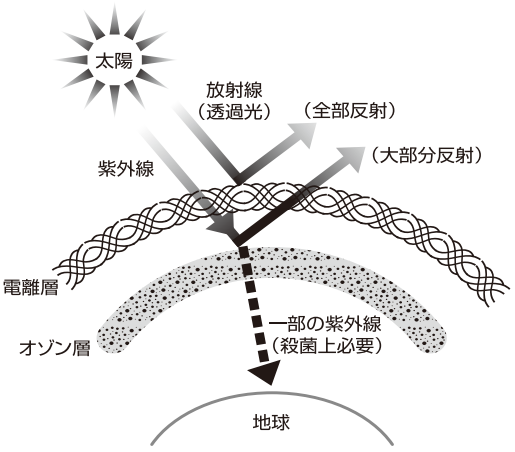
そして丹羽先生のお話が始まりました。1部の内容は、先日の健康博覧会の講演の内容と重複する部分もありますから、概略だけご紹介していきます。

最初に、先生の現在の活動等の話から始まり、白血病で亡くなられたご子息が抗がん剤で地獄の苦しみをされたこと、そのことがキッカケで今日の副作用のない、がん・膠原病・難病・アトピーの治療法、丹羽療法を研究開発されたことへと進みました。そして、西洋治療の先生、関係者の方々を前に、抗がん剤治療の罪から、丹羽療法の基本方針を話され、いよいよ活性酸素の話に。１９７０年を境に環境汚染が飽和状態になり、活性酸素が体内で暴れだし、北海道はさらに紫外線が本土とは違うという話に。

ここからは先日の講演になかったお話なので、再現しましょう。

「活性酸素を増やすもの。それは、自動車、トラックの排気ガス。工場の煙突から出る煙、二酸化窒素です。いわゆる環境汚染物質です。

と同時に、もうひとつ。北海道が危険なのは紫外線です。紫外線は殺菌効果がありますよね。旭川は冬が長い。夏になると冬に使っていた布団などを干します。紫外線で殺菌するわけです。どうして紫外線で殺菌できるかというと、紫外線は地球上の物体にぶつかると、活性酸素が4種類ありましてその中でいちばん強いＯ－２１（オーツーワン）というのを発生させるのです。これがカビやばい菌を強力に殺菌してくれるんです。しかし、これは当たりすぎてもいけない。活性酸素はカビやばい菌を殺してくれるけれど当たりすぎると人間をやっつけるから。だからオゾン層というのに囲まれて、紫外線の量がコントロールされていたんです。それがこの20～30年前から環境汚染がひどくなりだしてフロンガスがオゾン層に舞い上がっていってオゾン層を破壊し始めた。紫外線をコントロールしてくれていたオゾン層が破壊され、地球上に降りてくる紫外線の量が昔の何十倍にもなったんです。そうすると紫外線によって発生する活性酸素も何十倍にもなりました。



オゾン層の破壊は原爆投下に匹敵する!!

自動車や工場の排気ガスなど窒素酸化物から出る活性酸素、それから紫外線。特に紫外線のオゾン層の破壊はどこで起こるかといいますと、北極と南極で破れ出した。北海道は日本の中でいちばん北極に近いですね。つまり、いちばん紫外線がきついんです。僕は14～15年前から北海道には毎月来ているんですよ。北海道のお日様に当たると、いやーな感じがします。土佐清水のお日様に当たっているのとはわけが違う。とにかく、北極・南極に近いほどオゾン層の破壊がひどいから、紫外線の量が桁違い。

要するに自動車の排気ガス、工場の煙、それから紫外線、それらが活性酸素をばんばん生み出すから、がん、膠原病、難病、アトピーをどんどん悪くしているんです。

紫外線から生まれる活性酸素が

アトピーの皮膚にあたる。で、皮膚をつぶしてアトピーが小学校すぎても治らなくなったわけです。

　活性酸素が身体のなかへ入っていきますと、患者さんの肝臓、腎臓、肺の細胞の核の遺伝子を傷つけて、人工的に発がんします。それから、ＳＬＥ、リウマチ、膠原病は、血液の中のリンパ球に活性酸素がぶちあたって、リンパ球の性質を変えてしまうものだから、膠原病がどんどん悪くなってきたわけです。膠原病で命を取るのはＳＬＥね。命を落とさないのがリウマチ。でも、どっちも昔と比べてむちゃくちゃ悪くなっていますね。

　僕のところにステロイドを飲まされ続けて治らないリウマチの患者さんが来ます。アトピーの患者さんも塗り薬だけでは効かないからステロイドを飲まされる。喘息もステロイドを飲ます。リウマチ、喘息、アトピーは命を取らないんです。ステロイドは抜群に抑える力はあるけど、決して治しているんじゃない。ＳＬＥの患者さんが飲むのは仕方ない。飲まなかったら死んでしまうから。でも、うちの療法では、ステロイドを10年間毎日６錠飲んでいた患者さんも、丹羽療法でゼロにすることができます。10錠以上飲んでいた人は、さすがにゼロにはできないけど、２錠くらいには減らせます。

　そうやってなるべく副作用なしにしていますが、とにかく今ね、環境汚染がひどくなってがん、膠

原病、リウマチ、ぜんそく、アトピーの患者さんの治療が、私が医者になった50年前から比べるとむちゃくちゃきつくなっている。もう、年々きつくなって、昔は膠原病のなかのＰＳＳ、最後に肺の中にはいってきて肺腺症で死ぬ病気です。排気ガスのせいで、最近この肺線症がものすごく多い。昔は私の開発したＳＯＤでうちに入院したら簡単に治してあげられた。今は、どんどんひどくなって、あまり大きなこと言えなくなって来ました。うちに来ても死んでしまう患者さんが出てきたからです。

　昔と違って今は、あまり大きなことが言えないくらい病気がひどくなっている。

　昔は、旭川も５月、６月になると少し暖かくなってきて、お年寄りがよく日光浴していませんでしたか？　今、それをやったらダメですよ。どうしてかというと、紫外線が強すぎて、年寄りは皮膚がんになる。今、世界でいちばん皮膚がんが多いのは、オーストラリアの北東部なんです。オーストラリアの人は、18世紀、イギリスのケルト人が移住してきた。イギリスとアイルランド。アイルランドはロンドンよりももっと北なんです。日本の緯度でいうと樺太の北に当たる。そうすると、紫外線に対する免疫力がないから、いきなり赤道近くに来て、ばかばか皮膚がんになった。ところが、この、15～16年前からコロっと変った。オゾン層が破れているでしょ。だから南極に近いオーストラリアの南部にめちゃくちゃ紫外線が当たるんです。オーストラリア人は13人に一人は皮膚の前がん症状です。オーストラリアの小学生、長袖を着て歩かないと親が罰金取られる。家を建てるとき、紫外線カットの窓ガラスにしないと建築許可が出ないんです。

　そういうことで、北海道の方はこの紫外線には十分に気をつけ、私の開発した抗酸化食品のＳＯＤをたくさん摂るといいです。では後半は、このＳＯＤがなぜ効くのかということ、製法などをご説明します」

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。
※自由診療となります。
丹羽メディカル研究所
☎０１２０(７３１)１７５
もしくは
日本ＳＯＤ研究会
☎０３(５７８７)３４９８
まで　お電話ください。

ＳＯＤ様作用食品の製法極意

焙煎・発酵・油剤化

２部には約半数の方が残られ、ここからは先生もマイクなしでなごやかな雰囲気に。

「僕は、ＳＯＤを毎日６包飲んでいます。化学薬品ではないから１日のうちのどこで飲んでもいい。だから、忘れないように寝る前のお風呂上がりに飲むんです。ＳＯＤを飲みだしてから疲れなくなりましたね。それから風邪をひかなくなった。僕は男のくせに冷え性なんです。ＳＯＤは冷え性にも効きます。きょうはやけに足が冷えるなと思ったら、前の夜にＳＯＤを飲み忘れてたとかありますよ。血液の循環が良くなって、体が元気になるんですね。

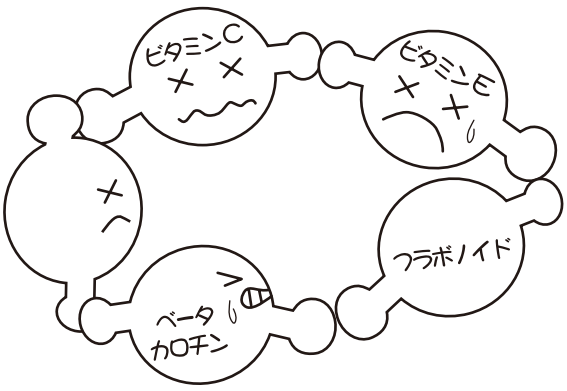
結論からいいますと、原始人にがんもなければ成人病もないんです。漢方の言葉にこういう言葉がある。

同病（証）異治

ひとつの病気にある漢方薬を使って、異なる結果が出る。治る人と治らない人がいる。とても非科学的な表現なのだけれど、これは確かにあるんです。とにかく、効く人と効かない人との間にどんな差異があるのかと。私は27年間考えてきた。神様は人間や動物を作られたときに、お前たちが食べている食事、木の葉っぱ、木の芽、木の実、木の根っこ、天然の食事のなかにがんに効くものも、活性酸素に効くものも、難病、膠原病に効くものも、みんな食品のなかに与えてあげていると。それをお前たちが食べて、体の中で活性型にして薬にしなさいよ、それで病気から体を守りなさいよと。だから原始人にガンもなければ成人病もないんです。

医食同源という言葉がある。昔はお医者さんなんかいないから医というのは薬のこと。薬と食事は同じものだと。食べているものが薬なんだと。ところがなんで人間だけががん、膠原病、難病にかかり始めたかということなる。私は27年間いろいろやってきましてね、結局到達したことはこういうことです。

天然の植物、木の芽、木の根、木の実の組織図は、みんな正の形でつながれているんです。タンパク質がこうあると、手をつないでいる。天然のままでは活躍できない、非活性型なんです。木の葉っぱが仮に活性型だと、紫外線が降ってきて活性酸素をばんばん出してしまう。人間や動物がそれを食べると病気になってしまう。ところが植物は非活性型で紫外線を跳ね返すから、人間や動物は食べられるんです。しかし、食べたら強力な胃液で重合型のチェーンを切って、自由な活性型にしてからだの中で吸収させないと意味がないんです。原始人はそうやってきた。



ところが、人間は、幸か不幸か火を使うことを覚えた。調理を始めた。食事が柔らかくなった。食べるときに以前ほどあごを使う必要がなくなった。おのずと唾液や胃液がそんなに活躍する必要もなくなった。そうしている間に、唾液、胃液が退化し始めた。神様がせっかく、あなたたちはあごで噛んで咀嚼し、唾液をよく出して、強力な胃液でこのチェーンを切りなさいと言われたのが、切る力がなくなったんです。野獣や家畜は依然として生物や草、木の芽、木の根を食べています。

私はある実験をしました。３本試験管を立て、１本は朝獣医さんに馬の胃液を抜いてもらって入れたもの、もう１本は漢方薬がぱちーんと効く人の胃液をもらって入れたもの、最後に皆さんと同じ普通の人の胃液を入れました。そこに大豆、ゴマ、胚芽などを微粉末にして入れ、胃袋と同じ状態の37度の保温器に入れて３時間置いておきます。保温器から出して、遠心器にかけて、粉を下に落として、胃液を捨てて、下に溜まった粉を調べたんです。牛や馬の胃液につ

けた粉と、漢方が効く人の胃液につけた粉を調べたら、チェーンが全部切れていた。普通の人の胃液につけた粉はチェーンが切れていなかったんです。ということは、漢方薬が効くわずかの人は原始人の胃液を持っているんです。胃液が退化していないんです。

私の抗酸化食品の原料は大豆、ゴマ、胚芽とかです。そこらへんにいくらでも安く手に入るバカみたいなものばかりです。成分表示といわれるとお恥ずかしい次第です。ところが、僕のは、加工方法が違うんだといいたいわけです。チェーンを切るんだと。で、どうやって切るかと。大豆に熱を加えると表面が焦げてしまって芯まで熱がいかない。芯まで熱が行って表面が焦げない、がんに効く成分は焦げたら壊れますから、当時、遠赤外線なんかなにもない時代に、花崗岩で土鍋を作って、炭で3時間、4時間炒った。そしたら表面がまったく焦げずに、芯まで熱が通ってこんがり焼けた。そこに麹をかけて発酵させる。硬い大豆も発酵すると柔らかくなり、さらにアミラーゼ、プロテアーゼが出る。たんぱく分解酵素が出る。だからきれいにチェーンを切ってくれる。それを油剤化して完成。

遠赤外線焙煎、麹発酵、油剤化。これが私が作っている抗酸化食品。ＳＯＤももちろんそうですが、それ以外にも十何種類あります。それで、進行がん、末期がんの患者さん、10人のうち3人は死んでしまうけど、2人は助かり、あとの5人は苦しまずにかなり生きていられます。

治る、治らないの境目、いちばん大きいのは心です

僕が一生懸命に治療して、がん膠原病をなんとか助けた患者さんが、各地の診療所に何十人といます。おっちゃん、おばちゃん助かってよかったなと握手して帰る。ところがその人たちのなかで、また悪くなってころころっと死んでしまう人がひとりかふたりいるんです。僕は、最初、薬が効かなくなったんだと思っていました。でも、本当に悪くなったのは10人中2人。あとの8人は悪くなっていない。このわけは何だと思います？　みんな自己管理が悪い。どんな病気でも、治りたければ食いたいときに食って、寝たいときに寝て、ぼけっとしていること。そんないい治療法はない。がん、膠原病、難病、アトピーにかかる人は、みんなそういう体質を持って生まれているんです。体質を持っていて死ぬまで病気が発病しない人はいません。死ぬまでに爆発しないでいる人は少ない。生きている間にその持って生まれた体質が爆発するかしないかの引き金はどこにあるかといわれたら、寝不足、過労、ストレスが重なるときです。アトピーの患者さんもそうですよ。若いお兄ちゃんがアトピーでやってくる。うちで一旦治るのに、帰るとみんなまたぶりかえす。聞いてみたらみんな受験生。そらあかん。

最近、不景気でしょ。僕がやっと命を救った患者さんが会社に行くと、首になったらいかんからと残業、残業です。そんなことしていたらいっぺんでだめになってしまいます。いちばんいけないのは、おばあちゃんが倒れて3ヶ月。寝ないで看病しました。そしておばあちゃんの通夜、葬式。2日間徹夜。それで倒れてしまう。介護の人に頼むとお金がかかるからどうしても家族でやる。

寝不足、過労、残業。絶対にだめです。どうせ無茶するのなら、はじめから僕にかかるなと。ものすごいお金使ってやっとのことで治っても、意味がない。

いまはお医者さんも悪いですね。患者さんが来ると、はい、ＣＴとりましょ、レントゲンとりましょ、検査しましょ、手術しましょ、薬出しましょ、さいならです。病気は自分が作るもの、自分が治すもの。医者、薬はそれを助けるもの。その基本を日本人は間違っているんです。

もうひとつ。やっぱり心の問題。50年医者をやってきて、この患者、もうとっくに死ななきゃいけないのに死なない人がいる。もうひとつ。この患者、まだ死なくてもいいのに、死んでしまう人がいる。これはある程度心の持ちようだと思う。精神的な緊張、悩み事。これがあると病気は治らないです。

西洋医学のお医者さんを前にして申し訳ないが、今の医学の三

大罪悪はひとつ抗がん剤。次にステロイド。３番目にトランキライザー。最近、自律神経不安定症、うつ病にね、みんなトランキライザーを処方する。トランキライザーはみんな眠り薬ですよ。精神の安定がいちばん。

私は昔からこういう治療をしていますから、医師会からは袋叩きに会う、製薬会社からはぼろくそにやられる。田舎だから、僕はお酒を飲まない。医師会の連中はみんな製薬会社や保健所のやつらと飲みに行く。そして丹羽のヤツは、と言ってとにかく50年。ひどい目に合わされまして、なんべん病院つぶされるかと思いましたよ。22年くらい前、うちには全国から難病の患者さんがたくさん来る。大阪や東京からうちに入院する。それで退院して帰る。ぼくが診療で大阪や東京に行くと、やはり私に診てもらいたいから患者さんがホテルに来るんです。大阪で診た患者さんは、高知県の保険を使ったらいけないんです。自由診療じゃないから。しかし、カルテが高知にあるものだから、高知の保険を使っていたら、それを医師会にちくられて、あっという間に保険医停止ですわ。こんなこと、多かれ少なかれみんなやっていることですよ。患者さんのためになるんですから。でも、うちだけやられました。

まあとにかく、意地悪ばかりされて、今、私の使っている薬、医薬品じゃありませんよ。医薬品の許可をひとつ取ろうと思ったら、100億、200億かかる。そんなお金ありませんから、医療行為として医者の責任で使っているだけです。健康保険も使えないです。それでもみなさん来てくれます。まあとにかく、ひどい目にあわされた。僕は痩せているし、神経質ですから寝られない。不眠症ですよ。ああ、またやられた。もう病院つぶれるんじゃないかと。ずっとストレス。なんとかして生きてきた。とっくの昔に死んでいてもおかしくなかったんです。ところがこの10年、15年、元気になってきた。

ずっとこういうことをやってきまして、うちのかみさんも、「あんたは昔から人に親切にしてきても感謝されませんね、かわいそうですね」って同情してくれるくらい。とにかく、若いときから友達が困っていると、戻ってこないのは分かってるのにお金を貸すんです。とにかく、若いときからいつも一銭なし。人に全部やってしまっていた。女房にぼろくそに言われて生きてきた。でもね、ほんとに、人を助けていたら、自分が困ったとき、必ず神さまが助けてくれる。それはほんとなんです。自分がやってきた経験なんです。

いまから18年くらい前、僕が泊まっていた東京のホテルに、金沢でＳＯＤの卸しをやっている男がやってきたんです。そして、金がなくなって嫁さんが自殺したと。高校生の娘がふたりいると。お金を貸してくれないかと言ってきたんです。僕は、その頃は10万円のお金も、嫁さんにはんこを押してもらわないと出なかったくらい、お金がなかったんです。なので当時、へそくりを作っていた。１８００円のタクシーの領収書の数字の１を７にするわけだ（場内爆笑）。そうやって一生懸命努力しまして、やっと100万円ができて、それをかばんの中に入れていたんです。そのとき、せっかくためた100万をそいつにやって、そいつが助かるならって、悩みました。やろうかやるまいか、ハムレットみたいに部屋の中ぐるぐる回って、最後、カバンに手を突っ込んで持っていって、お前、これをやると。どうせ返せないことはわかっているから天国で返せよと言って渡したんです。そうしたら、その３時間後。今度は、とある業者の製品に、英語の論文と日本語の論文を二つくらい書いてやったことがあって、

その業者の男が来たんです。それで、先生の書いてくれた論文のおかげで商品がむちゃくちゃ売れだしました。お礼ですといって100万置いていったんです。私はこれをみたとき、神さまは見ているんだと。人間、まじめに人を助けていたら必ず神さまが助けてくれると。

僕もいろいろやってきました。そんななかで、何をやっても助けてくれないときは、神さまがそれをやったらいかんということだと思ったんです。汝、今知らず。のち悟るべし、なんです。そう思えると、ほんとにラクですよ。何が起こってもスヤスヤと眠れる。それからは不眠症も全部治りました。何があっても太平洋の真ん中で寝ているようなもんです。本当の健康は心の安定。やっぱり自分が自分の神様を知ることです」

質疑応答

質問：ＳＯＤを心疾患などの患者さんにに飲ませると良くないというのはどうしてですか？

丹羽「ＳＯＤを飲むと血の流れが一気に良くなるんです。そうすると一気に血液が心臓に流れていくから、先天性の心疾患などがある人にはあまり良くない。苦しくなりますね。それから、ＳＯＤは血の循環が良くなるから、一時的にカイカイになる人がいます。そういう人と、大豆アレルギーの人をどうやって区別するかというと、アレルギーでカイカイ（痒い痒い）になる人は飲み続けていると、どんどんかゆくなる。逆に好転反応で血の循環が良くなって一時的にかゆくなった人は3週間、4週間したら収まってくる。続けて飲んでみてください。とにかく守備範囲の広い薬ですね。僕がこれだけ元気なのはそのおかげです」

質問：不整脈の人はどうです？

丹羽「これは飲んだほうがいい。しかし出血にはよくない。血流障害にはいい。つまったやつにはいい。それと、火傷の傷に効きます。1週間できれいになる。絶対にケロイド状にならない。女の人、顔傷つけたら飲むといいです。変な美容形成に行くよりずっといい」

質問：温室栽培の野菜は栄養がないと言われていますが、どうなんでしょう。

丹羽「栄養はちょっと落ちるでしょうね。あまり紫外線に当たっていないから。つくね芋というのご存知ですか？　あれは、そこらの畑で育ったものはおいしくない。ねばりがない。しかし、山の中の石の間をぎゅーっと掻き分けて生えてきた芋はねばりがある。試練があると力がつく。朝鮮人参も、島根の畑に持っていって作ってもだめなんです。北朝鮮の日本海側の岩場のところから生えてきたものがいいんです。アガリクスもそう。製薬会社は、消費が多くて追いつかないからといって、アガリクスをタンクの中で培養している。それは効かないですね。やっぱり自然の中で育ったものが効く。みんなそう。冬虫夏草も。ほんとうに効くんです。僕は4、5年前からどうして効くのか冬虫夏草のＤＮＡを分析している。おかげで僕の患者さんも助かっている人がたくさんいる。それを製薬会社が目をつけた。すると、みんな培養してしまうんです。効きが悪い。製薬会社は効くと聞いたら大量生産してしまう。これでは効かないです」

質問：合成されたビタミンとかが効かないというのは何かあるんでしょうか。

丹羽「あるある。それは、細胞核にレセプターというのがある。受容体ね。ＳＯＤの活性酸素を落と

ＳＯＤ様作用食品
体験者の声を
お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205
日本SOD研究会　藤沢宛
TEL 03－5787－3498
までご一報ください。

す機能は、この受容体に入っていく。人間や動物のレセプターは、先祖代々、天然のものをたべるようにできている。合成ビタミンは血液の中までは入るけど、細胞核に入るときにレセプターが嫌うんだ。合成ビタミンは血液中をうろうろするだけ。ビタミンＣが活性酸素を落とすからといって、大量に取る療法があるけど、まったく効かない。５０００cc点滴してもだめ。やっぱりナチュラルでないとダメですね。ビタミンのジュース類もいっぱいでているけど、ダメです」

■■■■■■■■■■■■■■■■

質問：私は市内の病院で医師をしております。佐野先生から伺い、今日は興味を持ってまいりました。お年のわりにはお元気で、分かりやすいお話に非常に感銘を受け、納得できました。これだけ治療面でいい成績を上げているものは、ぜひ広めて欲しいと思うんです。そこで質問ですが、ひとつは、現在、保険が通っている治療薬の中に抗酸化剤というのはあるのかどうかということ。それに関連した先生のＳＯＤのような作用を持つ薬が、現在治療している、保健薬でないとすれば、現在ある製薬会社と提携するなり協力して、保険適用薬にできるような可能性はあるのでしょうか。

丹羽「抗酸化作用を持つ薬は、西洋医学の薬の中にはないです。しかし、漢方には抗酸化作用が大なり小なり全部あります。ただ、チェーンを切ってやらないと、吸収されないのであまり効かないです。効く人と効かない人が出てきますね。

もうひとつ。くやしいのは、がんの患者が癌センターで捨てられて、うちに来てほんとに良くなるんです。そんなとき、立派な先生は10人中ひとりかふたり。ああ、ほんとうに効いている。丹羽先生すごいなといってくれます。たいていの先生は自尊心が強いし、頭にくるからボロクソにいうんです。エビデンスがない、と。化学薬品のエビデンスは、実際の患者さんに、偽物と本物をそれぞれ100人ずつに飲ませて、調べるわけですよね。しかし、僕のところに来る死にかけた患者さんに偽物を飲ませている猶予はないわけです。死にますよ。そんなこと、人道的にできません。

僕は論文を書くときはアメリカの友人の大学の教授に連絡して、英語の論文に直してもらうんです。もう、欧米ではファーストチョイスで抗がん剤は使わない。ケモセラピーはやらない。助からないがんには、おいしいものを食べて過ごさせる。抗がん剤は家族が言ってくれればやるだけです。ところが日本の医者のいけないところは、うちのとうちゃん抗がん剤で助かりますか?と聞かれたら、やってみないと分からない、70パーセントの確率です、と言う。欧米のお医者さんは、家族が抗がん剤を使ってくれと言ってきたら、おたくのご主人は抗がん剤を使っても3ヶ月で必ず死にますよと言う。こうこうこれだけの副作用が出ますよと、納得してやらせている。

向こうの超一流がん雑誌などにも抗がん剤批判は出ている。日本だけなんです。先日、その教授にＳＯＤや冬虫夏草の効き目の話をして、僕の論文を送った。そしたらその教授が、自分の先輩ががん学会の大物で、医学雑誌の審査員をしているというんです。あなたの論文を見せたらすごく喜んで、わしがこの論文を載せてやる、と。夏か秋には僕の論文が発表されると思います。それが出たら、厚生労働省も、もう黙っていられなくなると思います。もう、医師会も反論できなくなると思います。ほんとうに抗がん剤で苦しまずに、こういういいものがあるんだということで、世界中に広めたいと言ってくれています。みんなが使ってやりましょうという希望が、やっとここ3ヶ月くらいで出てきたんです。

20年、30年先は、僕の名前は出なくていいから、日本でもこの考え方をお医者さんが理解してくれる時が必ず来ると思います」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

７時に始まった講演が終了したのは10時前でした。佐野院長先生、侑子夫人、そして丹羽先生らの医療に対するひたむきさに触れられた、貴重な時間でした。ありがとうございました。

旭川佐野病院 院長ご夫妻インタビュー

医者だからSODが普通の健康食品ではないということがわかります

冒頭でもご紹介した、今回の丹羽先生の講演実演に尽力を尽くされた佐野侑子さん。

ご主人は佐野病院の院長をされ、侑子さんも専務理事（薬剤部長）としておふたりで医療に、奉仕活動にとお忙しい日々を送られています。そんなおふたりは、平成２年からＳＯＤを愛飲していらしたとか。20年も前と言えば、ＳＯＤもまだ油剤化されていなかった初期のものでした。今回は、丹羽先生の講演のあと、お時間をいただき、ＳＯＤとの出会い、そして今日に到るまでをお話していただきました。

資料を読んで、これは医学的にもしっかりしたものだと感じた

――20年も前からＳＯＤを飲まれていたとか。キッカケはなんだったんでしょう。

佐野院長先生（以下院長）「私は昔からゴルフをするのですが、その道具のメーカーである本間ゴルフの本間会長さんと知り合って、その会長さんから女性の美容と健康にと勧められたのです。本当はリウマチや膠原病の方に知らせてほしいとも云われました」

――当時はまだＳＯＤの知名度も低く、活性酸素の話も未知数だった時代ですよね。

侑子夫人「そうなのです。だから、詳しいことは分からず、とりあえず勧められたので飲んでみました。主人も私もスポーツ好きで、冬は必ずスキーに行くのですが、ＳＯＤを飲み始めて14日目にスキーに行ったところ、いつもリフトを2本乗り継いで上まで行って降りてくるのですが、息が切れるので途中2回くらい止まりながら滑り降りていたのです。ところが、そのときはノンストップで降りて来ました。そんなことは初めてだったので、このＳＯＤを飲んだためだと思いました。主人は最初、そんなはずはないとかいっていたんですよ。でも、いつのまにか飲み始めたのです（笑）。以来ずっと愛用させていただいています」

院長「丹羽先生の著書にも潰瘍性大腸炎に何％効いたというようないくつかのデータが載っていました。そういうのをみて、ああ、これは医学的にもしっかりしたものだなと感じました。その頃うちにいた先生がＳＯＤを潰瘍性大腸炎の患者さんに使いたいと言うような話も実際にあったのです。が、いかんせん保険薬じゃないから患者さんにはそういうのを処方はできません。厚生労働省の指導でそうなっているので、患者さんに使うことは出来ないと言いました。けれど、いいものは自分たちで飲もうよ、ということになったのですね」

侑子夫人「周りの知人にも老化防止で元気になるわよと勧めたものです」

――丹羽先生との出会いは？

院長「お会いするのは今回が2回目です。しかも初めてお会いしたのは今年に入ってからです」

――最初は札幌の丹羽先生の診療所で？

院長「いや、丹羽先生がいらしてくれたのです。というのは、話すと長くなるのですが、僕たちＳＯＤを飲み始めまして、もうひとつなにかがもの足りないことがあったのです。

それは、今で言うエビデンス、医

学的な治験に基づいた情報が欲しかったのです。

それがないと人に勧められないのですよ。そしたら、去年の暮れに、たまたま丹羽メディカルさんから『ＳＯＤ』という冊子が送られてきて、これは人に見せても理解できそうだと思ったのです」

侑子夫人「それを読んでいるうちに、私もいろいろ聞きたくて土佐清水病院にお電話したのです。そしたら事務員の方から、それだったら今年の1月16日に札幌の診療所に来てくれれば、丹羽先生と時間が取れるという話だったのです。丹羽先生のことをより知って、ＳＯＤのことを人に勧めるには、もうちょっと突っ込みたかったんですね。でも、札幌まではいけないのですと申しましたら、秘書の方から連絡をいただいて、30日にそちらに行きますからとのこと。来られるならそれなりの席をご用意しなければいけないと思い、その旨をお伝えしましたが、秘書さんが、そんな配慮はいりませんと。食事は旭川に行く車の中でパンをかじりながらそちらの病院に行きますとおっしゃったの」

――即決即断は丹羽先生らしいですね。

侑子夫人「当日、6時半過ぎにいらして、9時半ごろまでお話しました。それが初めての出会いです。（丹羽先生は佐野病院のこともインターネットで調べていらしたとのこと）先生のＳＯＤのこと、代替医療で人を救いたいとの思いが良くわかりました。その話の中で講演会のことも出ました」

――講演をゾンタクラブで開催されたのは？

侑子夫人「実は、クラブの年間行事で、2月か3月に卓話をやることになっていました。そのため講師を探していたのです。それで、丹羽先生が毎月一度札幌までいらしていることが分かり、厚かましく卓話をしていただけないかとお声を掛けてみたのです。先生はいいですよとお答え下さいました。さっそく丹羽先生の講演の話を会員に伝え臨時会議を開きました。活性酸素の世界的権威の講師のお話を少数の私たちだけで聞くのは勿体ないと、会員だけでなく一般の方、医療機関の方、報道関係の方など広く聞いていただくことにしました。結果、旭川ゾンタクラブの講演会が実現したのです」

病院恒例のスキー遠足で発覚したＳＯＤ飲んだ人、飲まなかった人

――西洋医学のお医者さんが、いわゆるエビデンスのないものをずっと愛飲されることはすごくめずらしいと思うんです。

院長「ＳＯＤは何の副作用もなく、何となくシャキッとなる、有効な健康食品であると感じました。良いと思ったら僕たちは几帳面だから、ずっと飲みましたよ。とにかく飲まない日は1日たりともなかったですね。旅行にも持って行きました。実は、僕は漢方も飲んでいたものですから、ＳＯＤに対してそんなに違和感がなかったのです。もともと僕は漢方の専門医の資格も持っているので、患者さんを漢方でけっこう治します。もちろん、誰でも彼でも漢方を処方しているわけではないのです。これぞという漢方と患者さんがマッチしたときに処方します。そうすれば絶対、うまくいくんですよ」

――丹羽先生の話にもありますよね。漢方が効く人と効かない人。

院長「そうそう。うんと勉強している先生は自分で調合したりするのでしょうが、僕はそこまでしていません。やはり保険医療の範囲内で処方しています」

侑子夫人「それでもう27年以上。病院が始まって2年目くらいから漢方を使い始めていますよね」

――西洋医学の医師で27年も前から漢方を使い始めるのも珍しいですよね。きっかけはどんなことでしょう。

院長「それは西洋医学で治らない症状が漢方で治すことが出来たことがあったのです。でも、初めは漢方は難しくてわからなかった。あるとき患者さんにその漢方を使ったら、自覚症状がとれたのですよ。それから勉強するようになって、漢方の講座にも長年通いまし

た」

侑子夫人「あの頃はサンプルが手に入ったのですよ。だからいろいろ試すことができたのも良かったですね」

院長「血圧の高い人が血圧の下がる薬を飲めば血圧は下がりますね。だけど、なにが原因が分からないけれど頭が痛い、肩がこるといったときに、漢方と併用をしていくとうまく自覚症状が取れたりする。それが面白くて使うようになりましたね」

侑子夫人「今日は、うちの漢方の専門医も講演を聴きに来ていましたよ」

院長「漢方の専門医は二人いますが、それ以外の先生方、消化器の専門のドクターも漢方の使い方を覚えて使っています。消化器内視鏡の専門医でバリバリ西洋医学の最先端の治療もしているのですが、西洋医学でどうしても取れない症状は漢方も併用しています。旭川は36万人の都市で、大学病院もあって、なおかつ風通しがいいのです。大都市と違い、民間と大学病院との交流がよく、非常に活発に勉強会が行われています。互いに協力し合っているので、漢方や丹羽療法の話も広がりやすいかもしれませんね。今ではお医者さんも活性酸素と疾病の関係は知っているのです。ただ、ＳＯＤのことは知らない。だから、聞いて欲しかったのです」

佐野院長ご夫妻

侑子夫人「東京にいる私の同級生がＳＯＤに興味をもって、先日の健康博覧会に行ったのですよ。丹羽先生の講演には間に合わなかったのですが、その人、始めはアンチだったのです。彼が都庁に勤めていました頃は、悪質な健康食品などを取り締まっている側だったかも。ですから、最初に勧めたときは、それって何よと！　怪しまれました。それで『ＳＯＤ』冊子などの資料を送ったのですよ。そしたらなにか良さそうだねって、講演会会場にまで行って来たそうです」

院長「丹羽先生の療法は、最初はみなさんアンチですよ。とくに医療関係者は。なかなか比較対照することができないものですから、勧めるにしても難しい。そんななか、ひとつ勧めやすいのは、アトピーが治ったという症例ですね。目に見えて分かるから。

　うちの職員で尋常性乾癬の人がいて、皮膚科に通っていたのですがなかなか治らない。ところがＳＯＤを飲んだらまわりの赤いのが消えてきたのです。それっ！と完治する前に早めに写真を撮りました。また1か月後にも写真撮って、消えたら丹羽先生に送ろうかと思っています。目で見て良くなったような人がいたら症例でも集めて送ろうかと思っています。僕らも興味があるし。今日来てもらった人には分かっていただけたと思うので、勧めたいですね」

――おふたりは専門家ですから、私たちが勧めるよりも興味を持ってくださいますよね。

院長「うちの病院は開業してから29年になりますが、初年からスキー遠足をやっているんです。前の日は泊まるのでお酒は飲み放題の大宴会（笑）」

侑子夫人「その宿で宴会をしているとき、みなさんにＳＯＤをお配りしたのです。そしたら翌日、ひとりだけ二日酔いになっちゃって気持ち悪くて動けなくなり次の日のスキーが滑れなかった人がいたのです。他の人はみんなＳＯＤ飲んで大丈夫なのにあなただけどうして？と聞いたら、一人だけ飲まなかったっていうんですよ。人体実験したみたいな結果になって（笑）、やっぱりＳＯＤはすごいなっ

てことになったのですよ。しかもスキーの時に飲んだのは1包ずつ。それであんなに差が出るのですから」

丹羽先生の話を自分の診療と重ね合わせながら聞きました

――今日の話はいかがでしたか？

院長「僕はもっと専門的な、抗がん剤と活性酸素のこととか、突っ込んだ話をするのかと思ったのです。丹羽先生の文献を読んでいて面白いなと思っていたものですから。なかなか読みきるのに時間がかかりましたけど」

――文献というのは著書『ガン治療究極の選択』でしょうか？

院長「いや、丹羽先生から送ってもらった文献、論文ですね。それを何冊か読んだのですよ。とにかく、普通の健康食品ではないということを知りたかったから、そういう文献を取り寄せたのです。若い先生はエビデンスがないからそういうのはどうかなあと言うんで、これだけ外国に論文を出している先生の文献なんだということを知らせなきゃいけないと思ったのです」

侑子夫人「知り合いも、活性酸素を除去する健康食品なら私も飲んでいるというのです。それでその資料をみせてもらったら、要するにビタミンＣとビタミンＥをカプセルにつめたものなのですね」

院長「今日の話にもありましたが、植物はみんな活性酸素を除去するものを持っている。ビタミンＣもＥも、ＳＯＤ作用があるのですね。巷の健康食品はそういったものを売っているわけでしょ？　しかし、それらは腸管からは吸収されないということなのですね。それは先生の話によると、ＳＯＤは重合のチェーンを切る特殊な加工法で細胞の中にまで届いている。だから効くのですよね。私は医者だから、その話は納得できるわけです。やっぱりこうやって理屈でいわれると納得できる。それがないと人に勧めるわけにはいかない。だから学術的な話ができるような情報があるといいですよね。あと、僕は先生の『白血病の息子が教えてくれた医者の心』という本を読んで涙したのです。あの話しがあって今日に至っているということを今日の講演でも言いたかったんでしょうね」

――原点がそこにあるのですね。

院長「僕はあの先生の本を読んで、学問や研究に一生懸命だということが理解できました。先生の診療姿勢などを伺っていると、そこに医者の原点というか、共鳴することがあります。だから今日、先生の話を自分の診療と重ね合わせながら聞きましたね。やっぱり先生のように医者の心をもって、患者さんに接しているというのは非常に素晴らしいなと思いました。先生の話に、亡くなった子供さんが自分を突き動かしているというような神がかったようなことがあるけど、それが信じられるのですね。違和感なく入ってくる」

これからの時代、活性酸素との関係抜きには病気を語れない

――昔は活性酸素のことが世間一般に知られていなくて、ＳＯＤなどはお医者さんからはまったく見向きもしてもらえなかったのです。それが最近、こうして佐野先生のように理解してくださる方が増えたことはありがたいことだと思います。世の中が変ってきていることを実感します。

院長「ＳＯＤを飲む以前のことですが、寝ているとなんか足がジンジンする、冷えのような感じがして、これは血行障害かなと思ったのですよ。スキー靴ってきついですよね。その状態で長い時間滑っていたから血行障害がおこってきたと思ったんです。ＳＯＤを3包飲み出したんですよ。そして気づいたら足の血行障害がなくなったっていたのです。ＳＯＤの効果を一番初めに感じたのは、便通がよくなったことでしたね。これはすぐにわかった。それと非常に疲れにくくなった。でも、飲まなかったらどうなるのか。これもエビデンスがとれないのですね。自覚症状しかない。この年で若い人たちがついてこられないくらいスキー

を滑れるのも、ＳＯＤのおかげですね。ま、腹筋などは日ごろから鍛えていますが。これを飲んでから、スキーのあとも疲れないんですよ。

　この前も、僕の日頃ゴルフのレッスンを受けているプロがサイパンに友達と行くというので、疲れが取れるよとＳＯＤをあげたんです。そしたら帰ってきてから目を輝かせてね、あれを飲んでゴルフをしたら調子が良くて疲れなかったっていうんですよ。６日間連続でゴルフをやり、絶好調だったって。すっかりＳＯＤのファンになっちゃって、今では毎日飲んでいます。僕らはこうやって好きな人に、飲んでみない？　といってあげているんですよ」

侑子夫人「まさかと思って、あげたのですけど、そんなに効果があったなんてね。嬉しいですよね」

院長「サイパンは紫外線も強いから。今日の紫外線の話も彼にしてあげないと」

侑子夫人「今年はツアーで予選通過して４日間残れるかもしれないわね（笑）」

院長「うちは保険診療をしているので、患者さんに直接はＳＯＤを処方できないのです。でも、この患者さんにＳＯＤを使えればと思うことはありますね」

侑子夫人「あと、今は亡くなられた方が、これを飲んでいたらもう少し寿命を延ばしたかもしれないということはありますよ」

院長「実感していますね。在宅診療をしていても、がんの患者さんに抗がん剤は使わないで痛みをとる治療をしているのですが、そういう方に免疫療法（ＳＯＤ）を勧めてあげたいのですよね。丹羽先生の療法だけをやっている病院ならいいのですが。はっきりしていることは、これからの時代、活性酸素のことを抜きでは病気は語れなくなります」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

お忙しいなか、長時間に渡りお話してくださった佐野院長先生、侑子夫人。ありがとうございました。こうしてお話を伺い、仲むつまじいご夫妻のお人柄に感銘を受けました。

**　いいものはいいと受け入れる姿勢、そしていいものを少しでも周囲の方々に広げたい、理解していただきたいと、丹羽先生の論文まで取り寄せられたとは驚きでした。**

**　さらに侑子夫人のゾンタクラブでの活動。一線で活躍している職業婦人たちによって女性の地位向上と奉仕活動を行っていらっしゃる。心より尊敬します。ああ、このような先生たちだから丹羽先生とも共鳴されたのだと思いました。**

**　いつか先生がおっしゃったように保険診療と自由診療の垣根がなくなれば、そして多くの患者さんたちが救われますようにと願ってやみません。**

医療法人社団博彰会　**佐野病院**

〒071-8133
旭川市 末広三条３丁目１－15
（末広３の３バス停前）

TEL. 0166-52-1177

FAX. 0166-52-2552

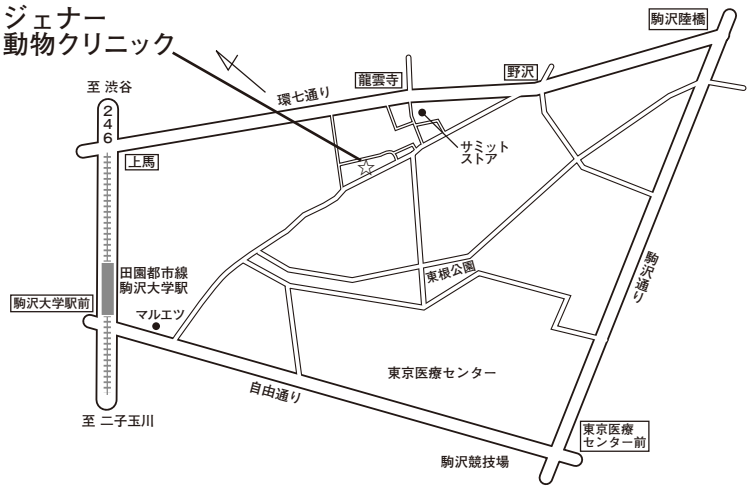
日曜祝祭日休診

●ホームページアドレス
http://sano-hp.com/

ジェナー動物クリニック
移転しました

丹羽療法を実践し、丹羽先生と共同研究をされている長瀬先生が院長を務めるジェナー動物クリニックが移転しました。場所は従来の世田谷区上馬から、同じ世田谷区の野沢です。距離にして１キロくらいの移転ですから、駅も同じ田園都市線の駒澤大学駅。電話番号は従来と同じです。

新館の前には車が３台とめることができ、便利。すっきりとした、モダンな外観。診察室は３部屋に増え、大学病院でも使用している最新のレントゲンが導入され、ますます精密な検査や治療ができるようになりました。



ジェナー動物クリニック
〒 154 － 0003
東京都世田谷区野沢４－７－５
☎ 03 － 3414 － 1411
診察時間　午前 9:00 ～ 12:00
　　午後 2:00 ～ 7:00
予 約 制　木曜日休診